

沖縄キリスト教短期大学
2019年度 前期
授業評価アンケート結果報告書

2019年11月27日

IRセンター

はじめに

2019 年度前期の授業評価アンケートを 7 月に実施し、67 科目、141 クラスについて分析を行った。分析に供された評価表は、3,631 件であった。評価は 5 段階法を採用しており、1 点から 5 点の範囲で、5 点を最高の評価としている。ただし、質問 4、6 においては、各数値に時間、割合をそれぞれ配置している。

学生による数値的回答による評価と自由記述による評価の 2 点についてみていく。

【文章内の表・グラフについて】

報告書内に記載の表やグラフは、次の 1、2 のことを踏まえて作成しています。

1. 短大の全ての授業を総合した評価を「全体」、教養及び各科の授業を評価したものをそれぞれ「教養教育」「英語科」「保育科」として、各選択肢の割合（％）を表で示した。
2. 1 で述べた回答（選択肢）割合を、積み上げ 100％横棒グラフで示し、「選択肢 4 及び 5」と回答した割合について前年度同期との差分を横棒グラフで示した。

1. 数値的回答による評価

学科名：全体	67 科目 141 クラス	回答数：3,631
--------	---------------	-----------

▼ 全学科

	度数	5	4	3	2	1	平均	標準
I 「学習成果」の到達度の自己評価								
1.知識を理解し、身につけることができた	3610	48.8%	36.4%	13.2%	1.4%	0.1%	4.32	.765
2.技能や表現等を身につけることができた	3611	45.5%	36.8%	16.0%	1.6%	0.2%	4.26	.793
3.自身や周囲の問題提起・課題解決ができるようになった	3604	44.9%	35.2%	17.3%	2.2%	0.4%	4.22	.836
4.自ら主体的に学ぶ意欲、課題に取り組む意欲が増した	3612	50.9%	33.6%	13.7%	1.4%	0.4%	4.33	.795
II 学習態度の自己評価								
1.授業の概要や目的、成績評価の方法など理解できた	3615	57.8%	29.5%	11.3%	1.0%	0.4%	4.43	.760
2.授業を乱す行為をしなかった	3617	62.0%	24.6%	11.4%	1.5%	0.6%	4.46	.800
3.授業に積極的に参加した	3601	57.3%	28.2%	11.6%	2.7%	0.2%	4.40	.814
4.1週間あたりの予習及び復習の合計時間	3608	9.6%	5.4%	13.7%	31.8%	39.4%	2.14	1.264
5.授業での遅刻はなかった	3597	78.5%	11.4%	5.9%	2.5%	1.7%	4.62	.839
6.授業における出席状況（今日現在）	3603	47.1%	31.8%	14.3%	5.6%	1.1%	4.18	.952
III 学習環境の評価								
7.授業中、質問する機会や工夫があった	3624	56.0%	27.3%	13.2%	2.6%	0.8%	4.35	.865
8.授業の開始・終了時間は適切であった	3621	72.6%	19.7%	6.2%	1.1%	0.3%	4.63	.680
9.授業の進め方にメリハリがあった	3622	67.9%	21.8%	8.3%	1.4%	0.6%	4.55	.751
10.理解や興味を引き出すよう工夫されていた	3621	62.6%	24.2%	10.9%	1.9%	0.5%	4.46	.801
11.教員として相応しい発言や態度であった	3624	70.8%	20.1%	7.9%	0.9%	0.3%	4.60	.702
12.十分な学習環境、受講生のマナーが保たれていた	3624	66.4%	23.0%	9.1%	1.2%	0.3%	4.54	.736
13.教科書や配付資料、黒板やパソコン等の有効利用	3622	70.7%	19.6%	8.2%	1.2%	0.3%	4.59	.716
14.授業の進度は、適切であった	3621	68.9%	21.6%	7.8%	1.3%	0.3%	4.57	.722
15.学んだという達成感が得られた	3616	63.1%	24.1%	9.9%	1.8%	1.1%	4.46	.826

II－質問4の回答欄（⑤3時間以上、④3時間程度、③2時間程度、②1時間程度、①0時間）

II－質問6の回答欄（⑤皆出席、④90%程度、③80%程度、②70%程度、①60%以下）

II－質問4「予習復習の合計時間」を除いた18項目の平均値が4.18以上と全体的にみて数値が高い。予習復習時間については2.14と低く、前年度同期の2.23よりさらに低くなっている。0時間とする割合も39.4%と前回より5%増加しており、逆に2時間以上（選択肢3、4、5の合計）は28.6%と前回より3.4%減少している。この件については8月に行われた学生FDワークショップでの学生の意見から、授業外で行っている学習を予習または復習として認識していないとの声があった。これらを確認する意味でも後期のアンケートでは、学生が質問の意図をくみ取れるように質問文を変更する予定である。

今年度はルーブリックを導入したこともあり、各科目がもつ達成目標についても触れた質問を配置した。評価としては高いものの、科目がもつ特性もふまえて質問を見直すなどの課題もある。

▼全体（グラフ）

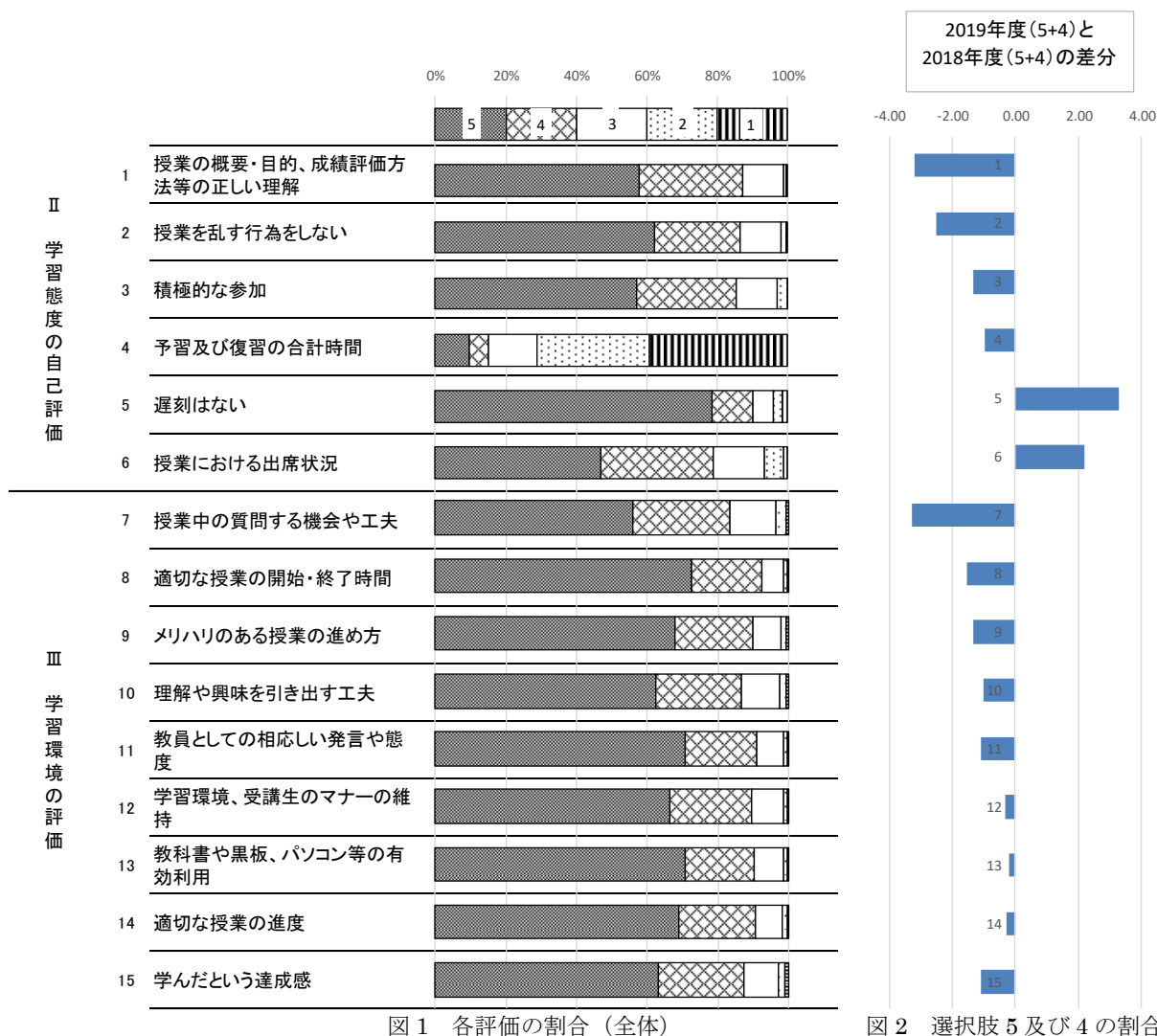


図 1 から、質問 4 以外の項目において選択肢 4 及び 5（以降「選択肢 4、5」と記載）の割合が 80%前後あり、評価が高いことがわかる。図 2 の前年度同期と比較したグラフをみると、プラスに伸びる項目は 2 つで、どちらもⅡ学習態度の自己評価のカテゴリ内のものであった。マイナスに伸びたのが 13 項目でマイナスの伸び率が大きかったのは、質問 1「授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解（-3.19）」と質問 7「授業中の質問する機会や工夫（-3.29）」であった。Ⅲ学習環境の評価のカテゴリでは全項目においてマイナスに伸びていた。

学科名：教養教育	13 科目 24 クラス	回答数：672
----------	--------------	---------

▼ 教養教育

	度数	5	4	3	2	1	平均	標準
I 「学習成果」の到達度の自己評価								
1.知識を理解し、身につけることができた	669	54.4%	35.1%	9.6%	0.9%	0.0%	4.43	.701
2.技能や表現等を身につけることができた	669	49.8%	37.1%	12.4%	0.7%	0.0%	4.36	.724
3.自身や周囲の問題提起・課題解決ができるようになった	666	50.2%	33.0%	14.4%	2.0%	0.5%	4.30	.820
4.自ら主体的に学ぶ意欲、課題に取り組む意欲が増した	668	55.1%	34.4%	9.6%	0.6%	0.3%	4.43	.714
II 学習態度の自己評価								
1.授業の概要や目的、成績評価の方法など理解できた	669	60.7%	30.3%	8.2%	0.3%	0.4%	4.51	.698
2.授業を乱す行為をしなかった	670	68.8%	22.2%	7.8%	1.2%	0.0%	4.59	.686
3.授業に積極的に参加した	664	64.0%	26.7%	8.3%	1.1%	0.0%	4.54	.692
4.1週間あたりの予習及び復習の合計時間	667	9.6%	5.5%	19.0%	28.0%	37.8%	2.21	1.269
5.授業での遅刻はなかった	664	84.5%	9.6%	2.7%	1.8%	1.4%	4.74	.720
6.授業における出席状況（今日現在）	668	47.8%	34.0%	12.3%	5.5%	0.4%	4.23	.900
III 学習環境の評価								
7.授業中、質問する機会や工夫があった	670	55.4%	28.1%	13.0%	2.7%	0.9%	4.34	.869
8.授業の開始・終了時間は適切であった	671	76.8%	17.9%	3.1%	1.5%	0.7%	4.68	.677
9.授業の進め方にメリハリがあった	671	75.3%	17.4%	6.0%	0.7%	0.6%	4.66	.679
10.理解や興味を引き出すよう工夫されていた	670	69.1%	20.4%	8.8%	0.9%	0.7%	4.56	.753
11.教員として相応しい発言や態度であった	670	74.2%	18.5%	6.0%	1.0%	0.3%	4.65	.667
12.十分な学習環境、受講生のマナーが保たれていた	670	72.7%	21.0%	5.5%	0.7%	0.0%	4.66	.617
13.教科書や配付資料、黒板やパソコン等の有効利用	670	76.0%	17.8%	5.4%	0.9%	0.0%	4.69	.614
14.授業の進度は、適切であった	671	74.2%	18.5%	6.0%	1.0%	0.3%	4.65	.667
15.学んだという達成感が得られた	670	69.3%	23.3%	6.3%	0.9%	0.3%	4.60	.675

a.学科＝教養教育

II－質問4の回答欄（⑤3時間以上、④3時間程度、③2時間程度、②1時間程度、①0時間）

II－質問6の回答欄（⑤皆出席、④90%程度、③80%程度、②70%程度、①60%以下）

I 学習成果の到達度の自己評価のカテゴリでは、すべての質問で平均値が4.3以上であった。選択肢の割合をみても、授業における到達目標に達した学生が多いととることができる。

教養教育の授業は、質問4以外の項目の平均値が4.2～4.7の範囲にあり、学生からの評価は高いものの、質問4は平均値2.21と低い。0時間と答えた割合は37.8%で前年度同期より7.4%増加している。2時間以上と答えた割合は34.1%と前年度同期と比較して0.2%減少している。カテゴリIIIの学習環境の評価では、ほとんどの項目の平均値が4.6%以上、選択肢の割合をみても、評価は高い。

▼教養教育（グラフ）

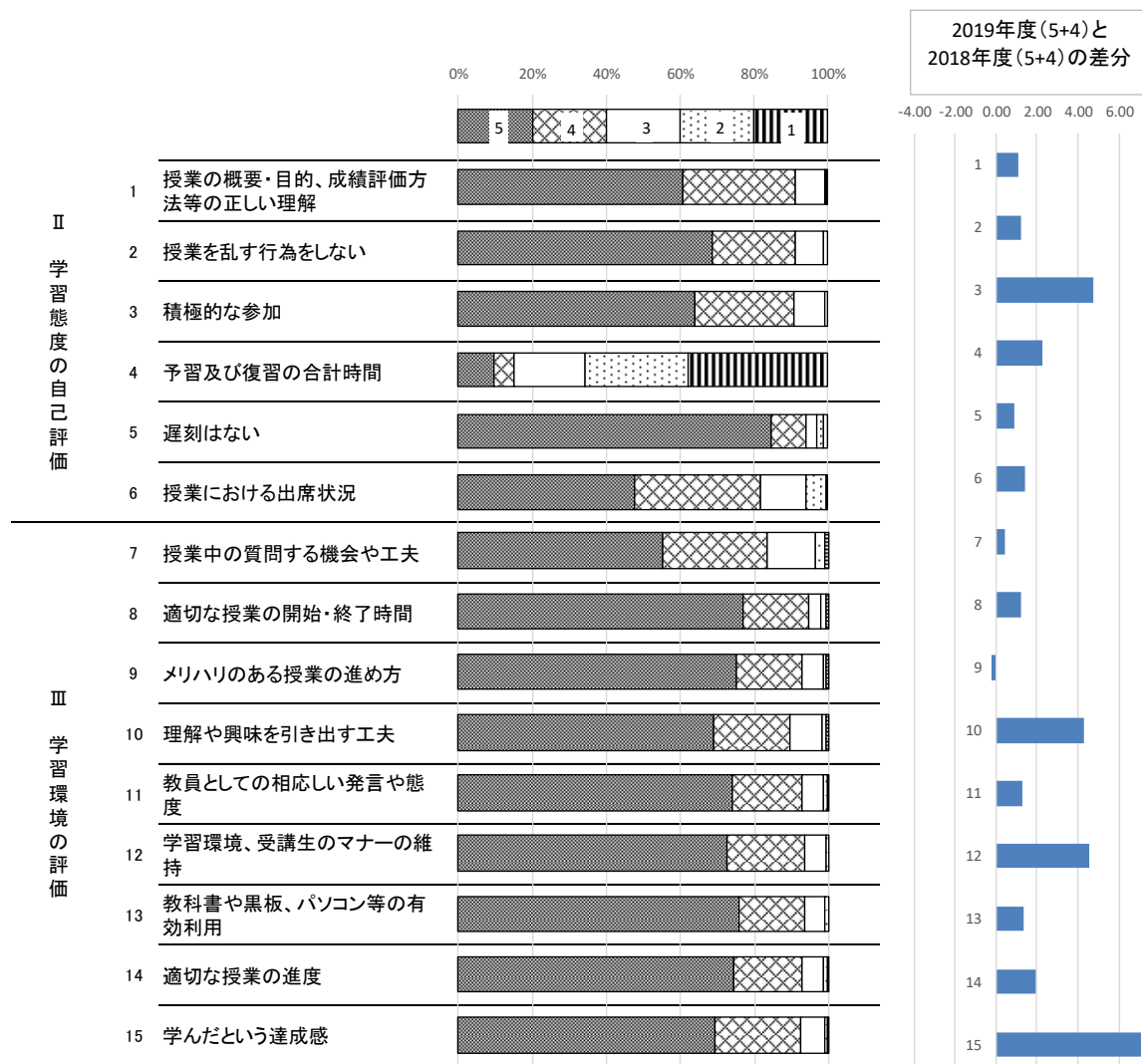


図3 各評価の割合（教養教育）

図4 選択肢5及び4の割合の前年度同期との差分（教養教育）

図3より、質問4以外の14項目において「選択肢5、4」が80%以上あり、総じて評価は高いといえる。逆に質問4の「選択肢5、4」は15.1%と悪いが、前年度同期より2%増加している。年々予習復習時間が減り続けていたことを考慮すると、今回割合としては低い、ここで減少傾向が止まることを期待したい。

図4から、多くの項目でプラスにグラフが伸びているのがわかる。マイナスの伸び率があるのは質問9「メリハリのある授業の進め方（-0.2%）」でしかもわずかな伸びであった。逆にプラスの伸び率を示すのが残り14項目で、質問15「学んだという達成感（+7.15%）」をはじめとして、質問3「積極的な参加（+4.76%）」、質問10「理解や興味を引き出す工夫（+4.28%）」、質問12「学習環境・受講生のマナーの維持（+4.57%）」等大きく改善していた。

学科名：英語科	27 科目 30 クラス	回答数：764
---------	--------------	---------

▼ 英語科

	度数	5	4	3	2	1	平均	標準
I 「学習成果」の到達度の自己評価								
1.知識を理解し、身につけることができた	762	49.5%	34.1%	13.9%	2.1%	0.4%	4.30	.814
2.技能や表現等を身につけることができた	757	47.3%	34.9%	14.7%	2.8%	0.4%	4.26	.837
3.自身や周囲の問題提起・課題解決ができるようになった	761	45.2%	31.4%	18.8%	3.9%	0.7%	4.17	.911
4.自ら主体的に学ぶ意欲、課題に取り組む意欲が増した	760	50.3%	32.8%	14.2%	2.2%	0.5%	4.30	.832
II 学習態度の自己評価								
1.授業の概要や目的、成績評価の方法など理解できた	760	61.8%	25.4%	10.9%	1.8%	0.0%	4.47	.761
2.授業を乱す行為をしなかった	758	48.4%	30.5%	18.5%	2.0%	0.7%	4.24	.866
3.授業に積極的に参加した	757	52.8%	29.2%	14.8%	2.9%	0.3%	4.31	.848
4.1週間あたりの予習及び復習の合計時間	756	10.6%	6.7%	18.5%	38.2%	25.9%	2.38	1.235
5.授業での遅刻はなかった	751	69.4%	15.8%	8.3%	5.2%	1.3%	4.47	.942
6.授業における出席状況（今日現在）	753	28.8%	34.0%	24.8%	10.5%	1.9%	3.77	1.036
III 学習環境の評価								
7.授業中、質問する機会や工夫があった	762	60.1%	23.6%	11.8%	3.4%	1.0%	4.38	.897
8.授業の開始・終了時間は適切であった	761	75.7%	17.3%	6.2%	0.8%	0.0%	4.68	.624
9.授業の進め方にメリハリがあった	761	70.4%	19.3%	8.9%	1.1%	0.3%	4.59	.719
10.理解や興味を引き出すよう工夫されていた	762	64.6%	21.4%	11.0%	2.6%	0.4%	4.47	.822
11.教員として相応しい発言や態度であった	762	74.5%	17.5%	7.1%	0.8%	0.1%	4.65	.657
12.十分な学習環境、受講生のマナーが保たれていた	762	66.8%	22.0%	9.6%	0.7%	0.9%	4.53	.769
13.教科書や配付資料、黒板やパソコン等の有効利用	761	71.0%	18.7%	8.8%	1.4%	0.1%	4.59	.722
14.授業の進度は、適切であった	760	70.4%	20.0%	8.3%	1.2%	0.1%	4.59	.703
15.学んだという達成感が得られた	757	61.0%	23.4%	11.2%	2.5%	1.8%	4.39	.915

II－質問4の回答欄（⑤3時間以上、④3時間程度、③2時間程度、②1時間程度、①0時間）

II－質問6の回答欄（⑤皆出席、④90%程度、③80%程度、②70%程度、①60%以下）

学習成果の到達度の自己評価のカテゴリでは、どの項目も平均値 4.1 以上であった。しかし、これらの到達度について選択肢 3、2、1 にあたる、いわゆる「できていない」と感じているのが 16～23%いることは留意すべき点である。その要因をそれぞれの科目において認知し、今後の授業運営に活かしていく必要がある。

英語科の授業は、質問 4、6 以外の項目の平均値が 4.1 以上であり、総じて評価は高いといえる。質問 4 は平均値 2.38 と低く、前年度同期よりさらに低い。「0 時間」とする割合は前年度同期に比べて-0.8%と微減している。前年度同期は「2 時間程度」、「3 時間程度」、「3 時間以上」と回答した割合がどれも増加していたが、今年度はどれも減少している。

III 学習環境の評価において各項目の平均が 4.3 以上の評価であり、これらの項目における学生の満足度は高いといえる。

▼英語科（グラフ）

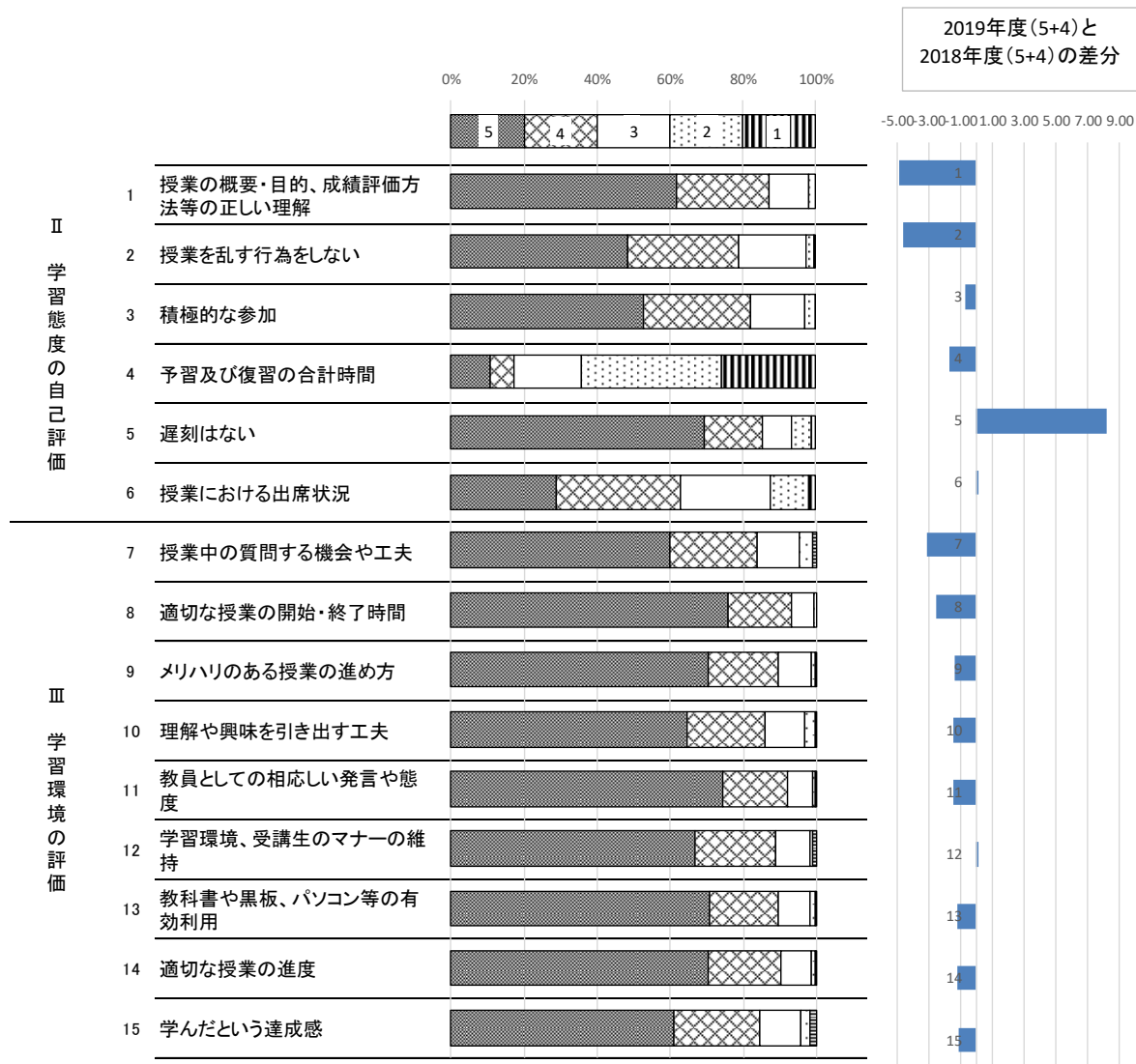


図 5 各評価の割合（英語科）

図 6 選択肢 5 及び 4 の割合の前年度同期との差分（英語科）

図 5 から、質問 2、4、6 以外の 12 項目において、「選択肢 5、4」が全て 80%以上あり、評価が高い。質問 4「予習及び復習の合計時間」は 17%と前年度同期より-1.7%と減少している。

図 6 から、前年度同期と比較してプラスに伸びているが 2 項目しかなく、逆にマイナスに伸びているのが多いことがわかる。プラスに伸びているのは、質問 5「遅刻はない (+8.2%)」だが、同じ授業への積極性を示す質問 6「授業における出席状況 (+0.16%)」は微々たる増加にとどまった。その他の 13 項目は、前年度同期よりマイナスになっている。これらの中でマイナスの伸び率が大きいものは質問 1「授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解 (-4.8%)」と質問 2「授業を乱す行為をしない (-4.61%)」の 2 つであった。

学科名：保育科	27 科目 76 クラス	回答数：2195
---------	--------------	----------

▼ 保育科

	度数	5	4	3	2	1	平均	標準
I 「学習成果」の到達度の自己評価								
1.知識を理解し、身につけることができた	2179	46.8%	37.6%	14.1%	1.3%	0.1%	4.30	.763
2.技能や表現等を身につけることができた	2185	43.5%	37.3%	17.5%	1.4%	0.2%	4.23	.796
3.自身や周囲の問題提起・課題解決ができるようになった	2177	43.1%	37.2%	17.6%	1.7%	0.3%	4.21	.811
4.自ら主体的に学ぶ意欲、課題に取り組む意欲が増した	2184	49.8%	33.6%	14.8%	1.4%	0.4%	4.31	.803
II 学習態度の自己評価								
1.授業の概要や目的、成績評価の方法など理解できた	2186	55.4%	30.7%	12.4%	1.0%	0.5%	4.40	.775
2.授業を乱す行為をしなかった	2189	64.6%	23.2%	10.0%	1.4%	0.8%	4.49	.795
3.授業に積極的に参加した	2180	56.7%	28.3%	11.6%	3.2%	0.3%	4.38	.831
4.1週間あたりの予習及び復習の合計時間	2185	9.3%	4.9%	10.4%	30.8%	44.5%	2.04	1.260
5.授業での遅刻はなかった	2182	79.7%	10.4%	6.1%	1.8%	1.9%	4.64	.828
6.授業における出席状況（今日現在）	2182	53.2%	30.4%	11.4%	4.0%	1.1%	4.31	.898
III 学習環境の評価								
7.授業中、質問する機会や工夫があった	2192	54.8%	28.3%	13.8%	2.3%	0.7%	4.34	.852
8.授業の開始・終了時間は適切であった	2189	70.3%	21.1%	7.2%	1.1%	0.3%	4.60	.698
9.授業の進め方にメリハリがあった	2190	64.8%	24.1%	8.7%	1.7%	0.6%	4.51	.778
10.理解や興味を引き出すよう工夫されていた	2189	59.9%	26.3%	11.4%	1.9%	0.5%	4.43	.806
11.教員として相応しい発言や態度であった	2192	68.4%	21.5%	8.8%	0.9%	0.4%	4.57	.725
12.十分な学習環境、受講生のマナーが保たれていた	2192	64.3%	24.0%	10.0%	1.5%	0.2%	4.51	.753
13.教科書や配付資料、黒板やパソコン等の有効利用	2191	69.0%	20.5%	8.9%	1.1%	0.5%	4.56	.740
14.授業の進度は、適切であった	2190	66.8%	23.1%	8.3%	1.5%	0.4%	4.54	.742
15.学んだという達成感が得られた	2189	61.9%	24.7%	10.6%	1.8%	1.1%	4.45	.832

a.学科＝保育科

II－質問4の回答欄（⑤3時間以上、④3時間程度、③2時間程度、②1時間程度、①0時間）

II－質問6の回答欄（⑤皆出席、④90%程度、③80%程度、②70%程度、①60%以下）

I「学習成果」の到達度の自己評価のカテゴリでは、全ての項目の平均値が4.2以上で評価は高い。しかし、15～19%ができていないとする自己評価の割合があることも着目すべき点である。

保育科の授業は、質問4以外の平均値が全て4.2以上であり総じて評価は高い。しかし質問4において0時間と回答した割合は44.5%と前年度同期より6.1%増加しており、保育科科目におけるアンケートの約半数近くで「0時間」と答えているのは、その要因を早急に探ることが必要と思われる。一方、冒頭でも話した実際の学習行動と、質問の意図が一致していない点も考慮しなければいけない。後期の質問文の変更で大きく数値が改善されることを期待したい。

▼保育科（グラフ）

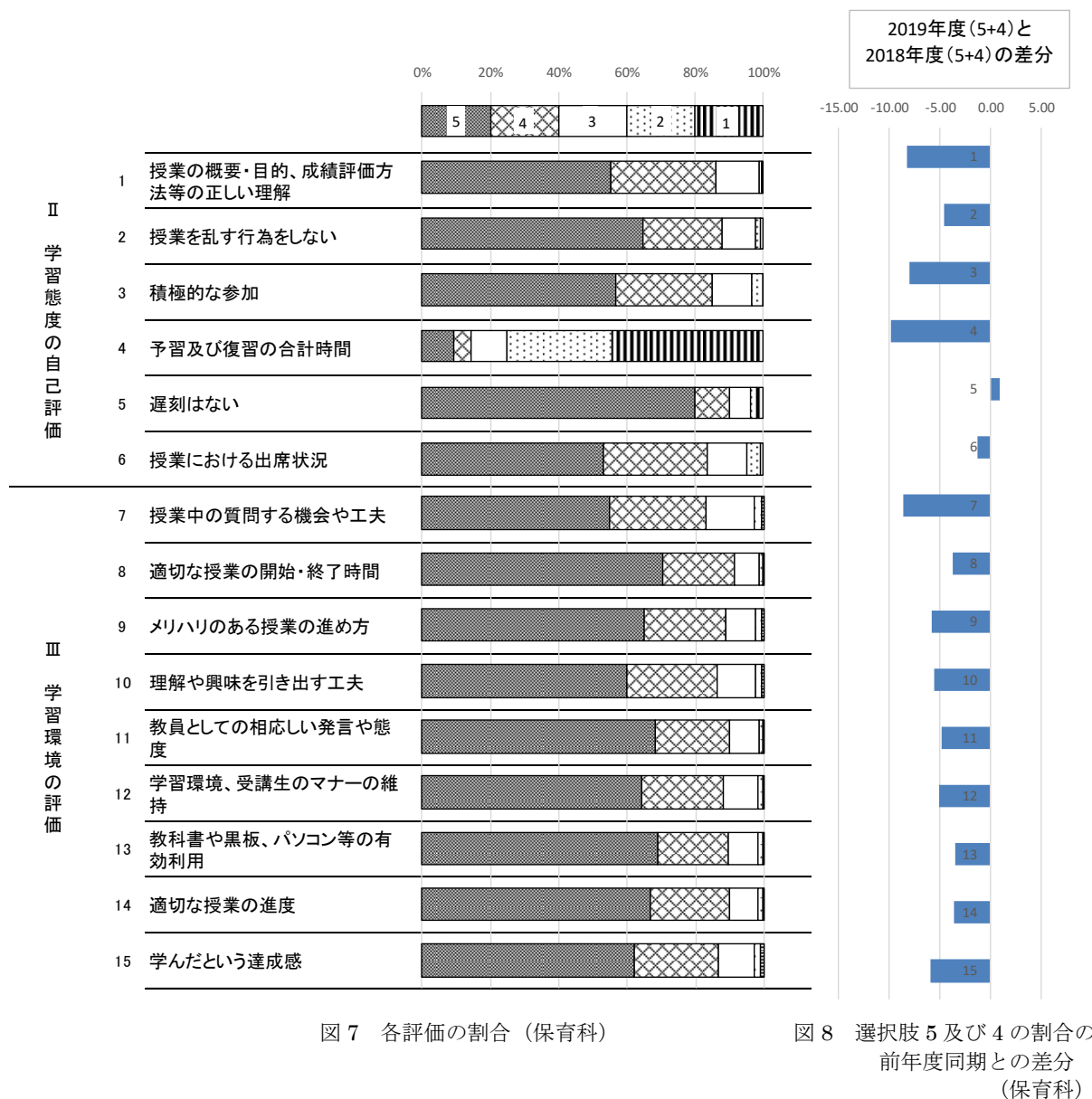


図 7 から、質問 4 以外の 14 項目において「選択肢 5、4」が 80%以上、さらにその中の質問 5「遅刻はない」と質問 6「授業における出席状況」以外では 90%以上と非常に高い評価である。質問 15「学んだという達成感」においても、評価は高いものの、詳細をみると、平均値が 4.5 以上の上位 50 科目中、74%は授業が演習中心の科目であり、残り 26%が講義中心の科目であった。本アンケートの質問中にある、学習成果の到達度の自己評価でも平均値の高い上位半分（40 科目）では、およそ 7：3 の割合で演習中心の科目が多かった。やはり、体験型の授業や学生自らアクションを必要とする演習中心の科目は、満足度も到達度の自己評価も高いという結果であった。この結果をみても、授業において何かしらのアクティブラーニングの手法を取り入れるメリットがあることがわかる。

図 8 より、保育科では前年度同期と比較して肯定的意見が、質問 5「遅刻はない」という項目以外、すべてマイナスに伸びていることがわかる。マイナスの伸び率が大きいものとして、質問 1「授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解 (-8.18%)」、質問 3「積極的な参加 (-7.94%)」、質問 4「予習及び復習の合計時間 (-9.84%)」、質問 7「授業中の質問する機会や工夫 (-8.57%)」の 4 項目が挙げられる。

今回の授業評価の分析より、次の 2 点が挙げられる。

1. 教養教育、各科での振り返り

今回、教養教育（前 総合教育系）は、ほとんどの項目で「とてもよく当てはまる」「当てはまる」といった肯定的回答が、前年度同期と比較してプラスに伸びており、学生の授業に対する満足度があがってきているといえる。逆に、英語科、保育科の提供授業ではマイナスになっている項目が多くみられた。マイナスの伸び率が大きい項目については、教員個人だけではなく、学科でも原因究明と改善のための施策が必要と思われる。

2. アクティブラーニングと学生のやる気の増加

演習科目の授業については、講義中心の授業より学生の満足度が高いということが一般的に言われている。保育科の結果をみても、総括的な満足度が演習中心の授業において高い傾向にある。だからといって、講義中心の授業では満足度が低いのかというと、講義科目の授業でも満足度が高いものはある。これらに特徴的なのがアクティブラーニングを取り入れていることが挙げられる。グループディスカッションや発表、ピアレビューなどの工夫がなされている授業は学生の満足度は高い傾向がある。これについては過去に先行研究等もなされており、文科省も推奨していることであり、本学でも同様の現象がみられた。

アクティブラーニングの導入は、講義科目への興味関心を湧かせ、学生のやる気を引き起こすものである。授業への参加や遅刻の減少等に数値的にでているものの、予習復習時間については残念ながら学生のやる気は表れていない。アクティブラーニングや反転学習の導入にともなって授業外学習時間が増えることを期待したい。

学生の皆さんには、このアンケート結果を自身の勉強スタイルと比較して、今後の大学生活の見直す材料としてぜひ活用してください。また、教員からの学生に対するフィードバック（コメント）もぜひ確認してください。

教員の皆さんは、この結果を毎年度、毎学期の授業の振り返りの参考資料としていただければと思います。

2. 自由記述による評価

学生の自由記述をテキストマイニングにより単語の出現頻度、共起キーワードを示すことで、学生の授業に対する考えを視覚化した。今回は「授業評価アンケート」に対する記述のため、「授業」「先生」という単語は当然頻出するものとして、その他の単語について着目する。

単語の出現頻度：文章中に出現する単語の頻出度を表にしたもの。「スコア」の大きさは、文書の中でその単語がどれだけ特徴的であるかを表しています。通常はその単語の出現回数が多いほどスコアが高くなるが、「言う」や「思う」など、どのような種類の文書にも現れやすいような単語についてはスコアが低めになる。

共起キーワード：文章中に出現する単語の、出現パターンが似たものを線で結んだ図。出現数が多い語ほど大きく、また共起¹の程度が強い語ほど太い線で描画されます。

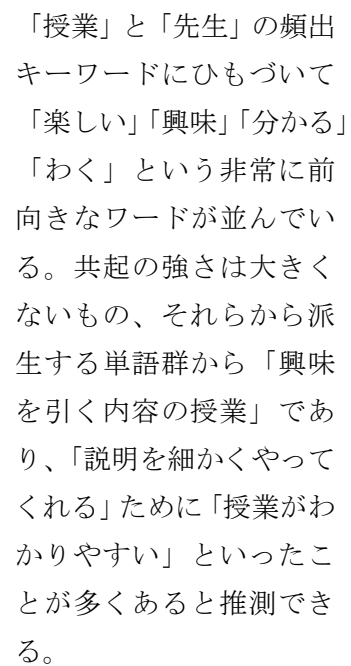
【教養教育】

< 単語の出現頻度 >

名詞	スコア	出現頻度	動詞	スコア	出現頻度	形容詞	スコア	出現頻度
授業	Q 122.44	91	くれる	Q 2.40	45	やすい	Q 19.05	54
先生	Q 23.53	60	できる	Q 1.37	33	楽しい	Q 3.29	38
内容	Q 5.25	19	分かる	Q 2.72	27	良い	Q 1.94	38
課題	Q 6.88	16	わかる	Q 1.20	25	多い	Q 1.27	21
説明	Q 6.10	16	思う	Q 0.36	25	ほしい	Q 0.70	15
毎回	Q 3.75	16	教える	Q 2.01	18	面白い	Q 0.31	9
興味	Q 2.82	14	聞く	Q 0.42	13	いい	Q 0.04	7
話し方	Q 17.38	10	学ぶ	Q 6.56	12	おもしろい	Q 1.09	6
レポート	Q 5.57	10	話す	Q 0.87	11	難しい	Q 0.29	6
キリスト教	Q 26.20	9	すぎる	Q 0.12	11	たのしい	Q 0.86	5
理解	Q 1.26	9	受ける	Q 1.04	9	優しい	Q 0.24	5
大変	Q 0.55	9	書く	Q 0.42	9	細かい	Q 0.79	4
質問	Q 1.39	7	学べる	Q 14.79	8	新しい	Q 0.13	4
心	Q 0.33	7	使う	Q 0.15	8	早い	Q 0.04	4
知識	Q 1.48	6	感じる	Q 0.20	6	眠い	Q 0.03	4

右側に表示される形容詞群において「～やすい」「良い」「楽しい」「たのしい」が頻出しているが、前年度同期多かった「おもしろい」「面白い」「難しい」「むずかしい」という単語が少なくなっている。中

¹共起とは、一文（改行や「。」などで区切られた各文）の中に、単語のセットが同時に出現するという意味です。共起回数は、一緒に出現した回数を指します。



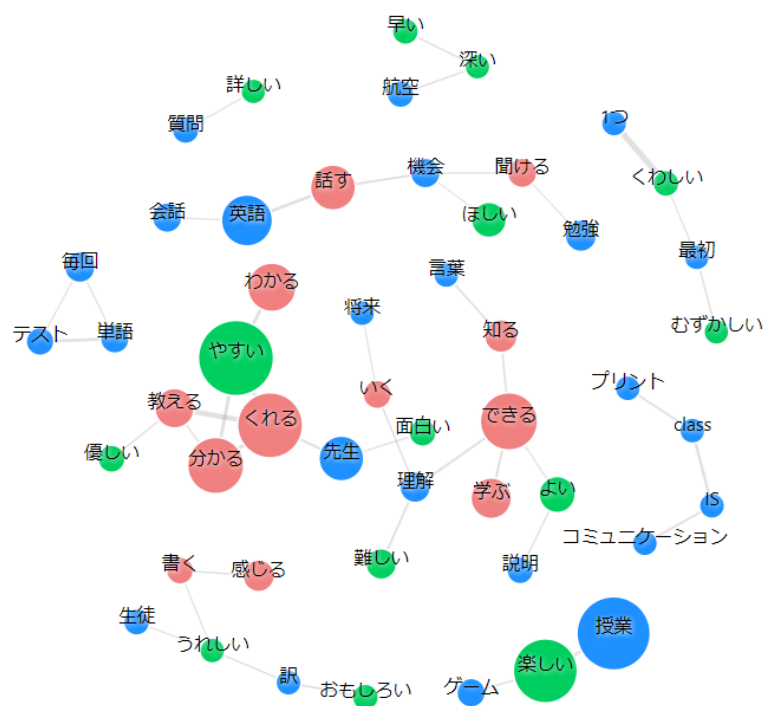
【英語科】

<単語の出現頻度>

名詞	スコア	出現頻度	動詞	スコア	出現頻度	形容詞	スコア	出現頻度
授業	Q 57.26	58	くれる	Q 1.80	39	やすい	Q 15.24	48
英語	Q 24.21	33	思う	Q 0.66	34	楽しい	Q 3.29	38
先生	Q 4.76	26	できる	Q 1.29	32	良い	Q 1.94	38
勉強	Q 1.06	11	分かる	Q 3.57	31	よい	Q 0.35	13
理解	Q 1.54	10	わかる	Q 1.11	24	ほしい	Q 0.45	12
毎回	Q 1.51	10	話す	Q 3.10	21	多い	Q 0.42	12
会話	Q 1.71	9	学ぶ	Q 12.33	17	たのしい	Q 3.89	11
機会	Q 1.46	9	教える	Q 1.59	16	難しい	Q 0.51	8
発音	Q 8.50	8	聞く	Q 0.35	12	優しい	Q 0.24	5
単語	Q 4.58	8	学べる	Q 24.14	11	面白い	Q 0.10	5
ゲーム	Q 0.33	8	知る	Q 0.25	10	くわしい	Q 9.45	4
テスト	Q 0.83	7	感じる	Q 0.44	9	おもしろい	Q 0.50	4
文法	Q 12.20	6	聞ける	Q 1.72	7	早い	Q 0.04	4
航空	Q 12.18	6	つく	Q 0.20	6	いい	Q 0.01	4
課題	Q 1.06	6	使う	Q 0.08	6	むずかしい	Q 1.64	3

左の名詞群からみていくと「授業」に次いで「英語」の出現頻度もスコアも高い。スコア面では「文法」や「航空」も比較的高い数値が高く、英語科目らしい特徴が出ている。中央の動詞群では、出現頻度が多いのは「くれる」「思う」「できる」「分かる」だが、スコア面では「学べる」および「学ぶ」で高い数値が確認できる。右の形容詞群をみると、「～やすい」「楽しい」「良い」が出現頻度は多いが、スコア面では「くわしい」で高い数値を確認できる。

<共起キーワード>



共起キーワードをみてみると、出現頻度の多い「授業」と結びついているのが「楽しい」のみになっている。これが「理解」や「分かる」といった知識・技能の定着ととれる状態になるとさらによい。「教える」と共起が強いワードとして「～やすい」「～くれる」「分かる」があり、教員の授業準備が功を奏したことがわかる。

＜単語の出現頻度＞

左側の名詞群では、「授業」「先生」の出現頻度が多く、次いで「内容」「理解」と続く。また、スコア面では「事例」の数値が高く、学生にもそれが響いていることがわかる。また「グループワーク」の数値も高く保育科の実践的な授業の特徴がうかがえる。中央の動詞群では、上位三つの動詞はほぼ出現頻度が変わらず多い。しかし、スコア面では「分かる」の数値が高い。また「学べる」と「学ぶ」の数値が高く特徴的なのは英語科と共通している。左の形容詞群では「～やすい」が出現頻度・スコアともに大きい。その他のワードでは共通してスコアが低い。

14